

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 元 年 12 月 10 日

事業所名 こどもプラス鳥栖教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	2		・利用定員については平均合算だと問題なし。 ・運動と学習でスペースが分かれているので良いが、運動スペースがもう少し広いとなお良い。
	2	職員の配置数は適切である	3	2		・他教室との兼務スタッフもいるが、利用児童を受け入れることはできている。 ・重度の子どもが利用する日は、付きっきりになることが多いためどちらともいえない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		4	1	・入口には段差があるが、手を繋ぎ補助をしているので問題なし。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	3	2		・常に情報共有をしているつもりではいるが、積極的な参加がみられないことがある。 ・社員とパート間で情報が行き渡っていないことがある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		・具体的な意見があまり出ないので意見交換をしやすい雰囲気づくりをしていくことが大事だと思う。 ・定期的な会議で、保護者の意向を活かしている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		・公開しています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	1	・評価結果を業務改善に努めている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		・ミーティングだけでなく、児童モニタリングを設ける時間が増えた。 ・FC研修も多くの職場で行っており、話し合いながら意見交換
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	3	2		・利用者の状況や、保護者のニーズも汲み取りながらミーティングを行い、全員でアセスメントに反映させるようにしている。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		1	・今後は個人ファイルを作り、支援目標、日々の様子を分かりやすくする必要がある。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	3		・イベントは話し合いながら立案しているが運動プログラムは専門職員が立案する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		・曜日で固定化しないよう工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		・フロア内にスケジュールを掲示している。長期休暇は別紙でスケジュールを視覚的に掲示している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1		・職員同士での定期的なミーティングをすることで、情報共有を徹底し、計画を作成している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	1		・時間を使って行えない場合もある。重要な事は口頭ではあるが周知をしている。役割分担はできていないことがある。 ・できてはいるが一定の職員にしか行き渡っていない場合がある。

	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	2		・その日の職員で気が付があれば話し、共有をしている。その場になかった職員にも出勤時に伝えるようにしている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			・気が付いたことがあれば、すぐにメモを取り支援の改善につなげる。 ・必ず行っている。支援目標に沿って記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4		1	・モニタリング時には複数の職員で会議を行い、児童に合わせた計画を作成している。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	2	3		・個々の児童、保護者に合わせて行っています。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	2		・相談員、保護者と情報共有をする場として積極的に参加している。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	4	1		・学校毎で対応に差があるが学校での様子をこちら側から聞くように心掛けている。 ・連携や情報共有について改善していきたい。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		3	1	・現在は該当する児童はいないが、対応できる体制を整えておく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3		・児発事業所は連絡を取り合うが、保育所やその他児発事業所との情報共有はしておらず、保護者からの情報提供のみである。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3	1	・今まで対象児童がいなかったため、今後行っていく必要がある。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		5		・現在、自立支援協議会への参加による関わりしか無い為、今後連携していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	2	1	・運動会などの行事を見学に行ったりしている。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	2	1	・積極的に参加し、他事業所スタッフとの交流の機会をつくり連携や情報共有もできている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	2		・送迎時のお話や連絡ノートにより情報交換、相談をし、共通理解を深めるよう努める。 ・支援方針についても共通の認識を持っていけるよう努力する。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	4		・保護者からの意見のレスポンスは出来ているが、全保護者とはできていない。	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	1	・契約時、見学時に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	1	・直接面談や電話、メールにて対応し、その都度対応を行っている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	2	・年1回の保護者参加のレクリエーション会を開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	・保護者からの苦情があった場合は必ず事実確認をし、状況や原因を迅速に伝えるようにしている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	1	・2ヶ月に一度のお便りと、長期休暇の際は別紙にてお便りを発行している。 ・イベントの告知、スケジュールも連絡ノートなどを通して告知をしている。	
	35	個人情報に十分注意している	4	1	・破棄する際は必ずシュレッダーにかけ、保管するものは施錠可能な書庫にて保管している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	2	・連絡ノートを使い、その日の様子や連絡事項を伝えあうようにしている。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	・機会は少ないが、近所の方々に協力して頂き、交流イベントを行ったこともある。今後また地域の方と一緒に参加できるイベントを企画したい。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2	・危機管理プログラムについて、まだ理解や認識が浅い部分があるので関連する研修などがあれば積極的に参加していきたい。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2	・年に2回、必ず避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	・年に1回、虐待防止に関する研修に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	3	1	1	・現在、身体拘束を必要とする児童がおらず計画書に記載していないが、今後必要な時には記載していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	・スタッフ間の申し送りや、利用者会議時に情報共有をし、徹底した配慮をしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・事例があった時点ですぐに報告書を作成し、ファイリングしている。事例ごとに個々で記入するようにしたことで、スムーズに作成できるようになった。	